

2年生インターンシップ研修（後期）

6月に実施した前期研修に続いて11月8日から22日までの15日間、インターンシップ後期研修を実施しました。

今年は8名が先進農家に、6名が企業研修でお世話になりました。

学生は、技術レベルの高い農作業や、社員様と変わらぬ仕事内容に戸惑いと責任を感じながら研修に取り組んできました。本研修を通じて、先進農家の技術力・経営や社会人としての心構えを肌で感じたことと思います。

受入農家並びに企業の皆様方、たいへんお忙しい中、不慣れな学生に対する親切・丁寧なご指導をいただき、誠にありがとうございました。



農産物直売所での研修



かつらぎ町での農家研修



かつらぎ町での農家研修



白浜町での農家研修



みなべ町での農家研修

和歌山食材テロワール事業の開催 (2回目)

11月10日に、今年2回目となる和歌山食材テロワール事業を、エコール辻大阪(辻調グループ)の辻製菓マスターカレッジの学生34名を迎え開催した。

まず、和歌山県の特産である「紀の川柿」の収穫体験を農林大学校の教員の説明で実施し、その収穫した柿を試食しながら、農林大生が加わって「柿の加工品を作ろう」をテーマとしたグループワークを行った。最後の全体会議では、農林大生による、農林大学校とハグルマ株式会社との6次産業化に向けての協業活動についての発表や、各グループワークからの報告が行われた。

7月と今回のテロワール事業の実施により、両校の学生の交流が深まり、特にエコール辻大阪の学生たちにとっては、和歌山食材への理解と親しみを深くする絶好の機会となった。

和歌山食材テロワールとは・・・

和歌山県食材の生育環境(生育地の土壌、地理、気候、栽培方法)からみた特徴を、和歌山食材テロワールと称し、和歌山ならではの食材のおいしさを発信しています。



岩尾副校長挨拶



紀の川柿収穫



紀の川柿試食



農林大生の発表

第4回アグリビジネス公開講座(11/30)

演 題 地方創生に向けた多様な農業のあり方
講 師 和歌山大学 地域活性化総合センター
食農総合研究所
准教授 岸上光克 氏

古くから農業は暮らしの一部として生活と密着しており、今も地域農業の中心は農的暮らしを続ける人々であり、近年では田園回帰を求める移住者も増える傾向にある。一方、高所得の強い農業を目指す農業者は、地域への密着度よりも効率を優先することが多く、農的暮らしを重視する人々とは農業に対する考え方が根本的に異なるとのことであった。

地域の農業形態が専業農家にだけ偏れば、地域内における農業理解が希薄化し、農業生産を継続して行くことが困難になる。このため、地域農業振興のためには、この両者が地域の多様な農業形態を認め合い、互いに協力補完しながら、地域全体における「考える農業」の推進が重要との事であった。

今回は、一般社団法人和歌山県植物防疫協会との共催事業として開催し、協会の会員の皆様にも多数参加いただいた。



多様な農業形態の重要性について講演中の岸上先生



会場の状況